

## 評価シート 様式

取組名	つるおか 森のキャンパス元気プロジェクト		
実施団体名	つるおか森のキャンパス推進協議会	対象地域	鶴岡市
(代表団体名)	鶴岡市	推薦団体名	
① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか		平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたととは判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について		平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。 <input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
		④ 継続 展開 の見 込み	

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

## 評価シート 様式

取組名	つるおか 森のキャンパス元気プロジェクト		
実施団体名	つるおか森のキャンパス推進協議会	対象地域	鶴岡市
(代表団体名)	鶴岡市	推薦団体名	

総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	「産直カー」という新たな産直の形態により、基礎的条件の厳しい集落と都市との間の交流拡大と地域内経済の新たな循環システムを構築しつつあるという点において、同様の地域を抱える地域にとっても参考となる先導性・モデル性がある。 本取組により、集落の方々の生き甲斐だけでなく、都市部の園児との新たな交流づくりや漁村との交流がはじまる等、地域全体への波及効果も認められる。 また、合併後の旧市町間の交流促進にも大きく貢献しており、この点においてもモデル的といえる。
	○ 評価
	⑤ <input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。	
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、市場に流通しない中山間地域の小ロットの農産物を集荷し中心市街地で販売するという点において先導的な取組であり、基礎的条件の厳しい集落と都市の交流モデルを構築しつつある点が評価できる。今後は、以下の点に留意しつつ、地方の元気再生事業を継続することにより、本格的な展開が期待できるものである。 次年度以降については、産直カーの自立的な運営体制を確立し、他の地域においても参考となるモデル構築を目指されたい。 具体的には、次年度予定している「森の産直カー実験事業」については、自立運行の確立に必要な検証を行うために重要な取組であり実施すべきである。「海の産直カー」については、森の産直カーと分けて実施するのではなく、中山間地域－漁村－市街地の交流促進という観点から森の産直カーと関連付けて行うべきではないか。 他方、首都圏小中学生の受入れのためのモニタリング調査やトレッキングコース整備内容の充実、空家バンクデータの活用による短中期滞在の交流社会実験等、その他の都市と地方の交流事業については、上記取組に集中するという観点からも、実施の要否も含めて抜本的に見直されたい。